

4 我国おける離乳の現状

香蘭女子短大 青山よしの

1956年九大医学部の離乳班が北海道、宮城、長野、岡山、千葉、埼玉、福岡、兵庫、熊本の8県、東京都、京都府より集めた調査票により、離乳前の栄養離乳を始めた時の月齢、初めて与えた食品、離乳の進行状態、或る日の食事と其摂取栄養素、以上の項目に付調査し、我が国の離乳の現状を研究した。

離乳前に於ける栄養法を、母乳、混合、人工の各栄養法に三別する。比率は母乳 65.9%、混合 25.6%、人工 8.5% となり母乳が最も多い。次に離乳の開始月齢は栄養法に別けると、母乳 7.4 ヶ月、混合 7 ヶ月、人工 6.7 ヶ月となり母乳が遅く人工が早い。初めて与えた食品も地区別比率により、重湯、ビスケット、スープ、味噌汁、遺し粥の順になる。離乳の進行は、順調に進行しているか否かを栄養法別、地区別比率により、母乳 63、混合 72、人工 73、北海道 86、東北中部 56、となっている。次に離乳食を食べぬと云うのが進行を妨げる最大の理由となっている。離乳完了時期は 13.4 ヶ月で離乳期間は 7.3 ヶ月で何れも人工栄養の離乳進行は良く母乳栄養は低調であった。離乳の遅延は母乳が多すぎるの理由が最も多かった。最後に母乳、人工、混合の各母乳断乳児の1日の食事の各栄養素の摂取状態を調査しグラフに表して必須栄養量を比較した。以上によって得た成績の結果解説以上となっている。